

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500332		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス向陽台	ユニット名	ふじ
所在地	宮城県仙台市泉区向陽台5丁目16-20		
自己評価作成日	令和 6年 2月 1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>重度化や看取り支援がある中で、終末期になってもその人らしい生活が出来るようにしている。普段はベッド上での生活であるが行事などの時はユニット入居者さまと一緒に楽しむことを心掛けている。職員も入居者も共同しての生活であることを理解し入居者さまの状況に合わせて家事のお手伝いなどを一緒に行うようにしている。また、外出などの外へ出る機会を多く企画し、楽しみを持てるよう取り組んでいます。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 6年 3月 6日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、向陽台の小高い所にあり閑静な住宅街にある。近隣には向陽台小学校や保育園、駐在所、コミュニティセンターがある。同敷地内には訪問介護やデイサービスがあり、デイサービスの利用者とは、ボランティアの「歌のコンサート」等の行事に、一緒に参加し交流を図っている。運営理念「利用者様主体のケア」「地域福祉の向上をめざす」「介護サービスの向上」を掲げ、朝礼時唱和する事で、理念の周知と意識向上に努めている。日々のケアの中で、気づいた情報や提案を取り入れ共有する事で、職員同士の協力体制が出来ている。入居者は家事や野菜作り、趣味の編み物等をしながら、自分らしく穏やかに過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホームコスモス向陽台** )「ユニット名 **ふじ** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に「地域福祉の向上」を目指すと共に住民として進んで参加しますと掲げており、唱和して共有し実践に繋がるよう努力しています。	理念は各ユニットフロアに掲示してある。朝礼時に運営理念を昼礼時に各ユニット理念を唱和している。6か月毎に会議で話し合い、見直しを行う事で、理念がケアの中で活かされているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりが持てるよう、散歩や外出にて出合った地域の方々に挨拶をし会話することを続けていきながら、良い関係性が持てるよう心がけています。	町内会長から、ホームに隣接する小学校の吹奏楽部演奏会に誘われて、入居者数名が聞きに行った。近隣へ2週間に1回来る訪問販売車で、入居者が菓子等を買に行き、地域の方々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで地域住民の一員として生活できるよう職員も入居者様に支援していることを報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて運営状況や取り組みを報告し、意見があれば伺いそこでの内容を取り入れてサービスの質の向上につなげています。また、地域の情報共有の場となっています。	会議は書面や対面で6回開催した。対面時は地域のコミュニティセンターを会場とした。メンバーは町内会長や民生委員、地域包括職員、家族である。民生委員から児童館の子供達と交流の提案があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市担当者、包括支援センターと連絡を密に取り、相談や不明な点があった際にその都度連絡確認し意見を頂き、指導を受けております。	市担当者に介護保険認定更新や区分変更、生活保護者の相談や助言を得ている。県社会福祉協議会主催のスキルアップ研修会に参加した。地域包括職員に空き室の相談をし、入居に繋がった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じスタッフ一同内容を理解して身体拘束を一切実施しないケアを実施しております。	職員が提出した「検討シート」の事例を基に、身体拘束等適正化委員会で、状況や原因、結果、改善点まで検討し、職員間で共有している。日頃の声掛けから、何がスピーチロックにあたるか意識して対応している。職員間で気付いた時は注意し合っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待について学び、日ごろから虐待を起こさぬように努めています。小さな声から一つ一つ確認していき、職員同士でも間違った声掛けが行われていないかを確認し合っています。	マニュアルを基に研修をしている。介護拒否がある場合等は、職員が代わる等の対応をしている。管理者は年2回の面談を行う中で、家庭の事情や勤務内容の相談を受けている。職員間の協力体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて権利擁護についての研修を行い学んでいますが、制度を活用されている利用者が居ないため、今後の必要に応じて支援していきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は懇切丁寧に内容を説明し、ご納得いただいた上で記名押印を頂いております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しております。	通院時や電話連絡時に意見や要望を聞いている。外出や面会時間、居室での面会等の要望は、コロナ禍での自粛を2月から緩和している。自宅に帰って娘の手作り料理を食べに来て方がいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者並びに管理者が一体となって運営作りが行えるよう、スタッフから面談や会議において意見・提案等を吸い上げ、運営に反映できるよう努めています。	管理者は面談時や日々話しやすい環境作りをし、意見を聞き業務改善に繋げている。月2回の希望休の他に希望に沿ったシフトになるよう調整している。資格取得は勤務扱いや費用負担の支援がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者ならびに管理者が一体となって働きやすい職場になるよう、面談や人事評価を行い、また各スタッフとも向上心を持てるよう目標設定をし実行をしてもらいながら、良い環境で働いていけるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修や毎月のスタッフ研修ならびに本社研修などの機会を設けて、資質向上に努めています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過明けではあるが実施出来ていない。	隣接する同法人デイサービス職員と行事を企画したり、ケアについて話をし交流がある。専門医とも、入居者の体調や薬について相談している。調剤薬局の薬剤師には、入居者の投薬方法等で相談をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の不安事や要望等に耳を傾け、状況を把握し、ケアに活かしていくための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や不安事に耳を傾け、ご本人様と共にご家族様も支援していけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ご家族様の要望等を聞き入れ、会話やケアを通じて、何を必要とされているのかを見極め、ご本人様ご家族様が安心出来る対応ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の今までの生活歴を把握し、あくまでもご本人様主体のケア、生活のペースや体力・ADLに合わせたケアや支援が出来るよう配慮しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設入所後もご本人様とご家族様が、継続して繋がりが持てるよう連携を取り共に考え、また、他業種の方々や地域も連携を図りながら支援していけるよう努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物品を持参して頂き、ご本人様の居室や手の届くところに置いておき、居心地のよい場所となるように努めています。	理容師が3ヵ月毎に来訪しカットや顔そり、毛染めをし馴染みの関係が出来ている。美容師の娘が来訪し居室でカットをしている。車で近くの七北田公園へ花見に行ったり、洞雲寺へ紅葉を見に行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話したり、一緒にレクリエーションや行事に参加し楽しんで頂ける様な配慮を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡し状況確認を行っています。広報紙も配布するようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の出来る事、やりたい事、昔から行ってきたことを把握し、可能な限り実現できるようなケアや支援に取り入れて一緒にを行っています。	普段の生活の中で、入居者の気持ちに寄り添い、話を聞くように心掛けている。秋田出身の方が「きりたんぼが食べたい」との要望に応じたり、職員と一緒に梅のヘタを取り、梅ジュースを作って懐かしんだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで本人の状況を把握し、出来る限り継続した生活が続けることが出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の心身の状態や、出来る事・出来ない事の把握に努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の現状を把握したうえで、今後の課題とケアの方向性を毎月一回のカンファや毎日のミニカンファを通じて聞き取りし、またご家族様と話し合いをし、その結果を介護計画に活かしていけるよう努めています。	入居者や家族の思いをアセスメントし、担当職員の意見を基にモニタリングをして、3カ月毎に見直している。家族の要望で拘縮予防の為に、訪問マッサージを週2回計画に取り入れている方が数人いる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録など記入し、スタッフ間で情報を共有し実践し、経過や結果から方向性や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージや機能訓練などのサービスのご協力を頂きながら対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に移動販売車が来るときに、利用者様が希望される際には利用させていただいている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週かかりつけの主治医が往診に来てくれる体制を整えています。健康状態健康状態に応じて連絡相談出来ています。	全員が協力医の訪問診療を月2回利用している。専門医への通院は家族であるが、職員が同行する時もある。歯科は、治療を要する時に来訪している。訪問看護師が入居者の体調管理や医療機関と連携を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師、訪問看護師、スタッフと報告や記録にて連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通じて必要に応じて連携しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を設けて、入居時や必要時にご家族様と話し合い、方針を共有しています。	「看取りに関する指針」が明文化されており、入居時に説明している。状況の変化に応じて家族や医師、職員で話し合い、今後に向けての意思確認を行っている。看取りの研修や看取り後の振り返りを行っている。看取り後家族から感謝の言葉があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいた研修を行っており、対応できるよう努めています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	基準に基づきスプリンクラーを設置し、避難訓練を実施して災害時に備えています。	年2回避難訓練を行い、誘導方法や避難経路、避難場所の確認をした。訓練後は「避難誘導後の目印として、居室前に枕を置く」等を共有した。非常用食料やコンロ、懐中電灯等を備蓄している。	夜間想定をした避難訓練を実施して頂きたい。運営推進会議で話し合い、コロナ禍前のように地域住民の協力が得られるよう取り組んで頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関するマニュアルや認知症に関する研修にて言葉かけや尊厳を学び、一人ひとりを尊重しプライバシーが守れるよう努めています。	排泄の失敗時には、周囲にわからないよう居室やトイレに誘導している。申し送り時は、内容が入居者に聞こえないよう配慮している。入居者は人生の先輩として、常に敬う気持ちでケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思表示や自己決定ができるように、例えば水分提供の際は、好きな飲み物を選んで頂くよう声かけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけご本人様の思いやしたい事に配慮しながら、また、ペースに合わせた生活が送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服だけではなく髪型や髭などの身だしなみも配慮して支援しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食の盛り付けや、食器やおぼん拭き、テーブル拭きを手伝って頂ける様声かけ支援しております。	食事は主菜を配食業者に発注し、味噌汁やご飯、副菜等は、職員が作っている。誕生日は入居者のリクエストで蕎麦や肉料理等が出てくる。敬老会は職員手作りの祝い膳が喜ばれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量を常に把握し、必要な栄養や水分が摂取できるよう配慮し、本人の体調や嚥下状態も把握しながら食事形態を考え提供し支援行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し清潔保持に努め、必要時は訪問歯科に治療をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り自立した排泄ができるよう声掛けや物品にも配慮し、プライバシーにも配慮しています。	排泄チェック表や表情、ソワソワしたしぐさを見逃さず、適切なトイレ誘導を行った事で、失敗が減りパッド不使用になった方がいる。見守りシステムを使用し、入居者の安全を確保しながらトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や体調、運動不足など多角的にとらえ、自然排泄が出来るよう支援しています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴表に基づき定期的に入浴ができるようにしていますが、一人ひとりの体調や気分に合わせて柔軟に変更したり、ご本人様が入浴を希望する時間に合わせられるように行っています。	入浴は週2回以上である。リフト浴があり、浴槽を跨ぐのが困難になった方でも、湯船に浸かり気持ち良く入浴している。柚子湯や菖蒲湯で季節を感じている。風呂釜洗浄を週1回行い、清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明るさや温湿度の管理を行い、かつ個室内での転倒防止にも出来る範囲で努めていき、安心して休んでいただけるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表に基づいた管理を行っていません。服薬事故のないようスタッフ間でダブルチェックを実施しています。また、看護師にも内服時間や方法など相談しながら、かつ医師にも相談を行いながら適切な服薬ができるよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔行っていた趣味や楽しみごとをご家族様から伺い継続して行っていくことで、メリハリのある生活が出来るよう支援しています。出来る事に配慮した支援をし、手伝い等役割と感じ、活気のある日常を過ごして頂けるよう支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や要望を聞き取り、参考にさせていたいただきながら月に1度以上外出の機会を作っている。今後も増やしていきたいと思えます。	車椅子の方も一緒に、近くの公園へ散歩に行っている。泉アウトレットのイルミネーションを見ながら散策をしたり、莓狩りに出かけている。ホーム駐車場で芋煮や秋刀魚を食べたり、プランターで野菜を育て外気に触れている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別でのお金の管理を行える方が少なく、施設預かりとしていますが、ご本人様やご家族様の希望に応じて、お小遣いの中から買い物支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からご家族様への電話連絡が自由に行われるよう支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、季節感を感じる事の出来る飾りつけを行っており、居心地のよく感じる空間作りに努めています。明るさや温湿度にも配慮行っています。	フロアで行う、敬老会やクリスマス会、餅つき大会は紅白幕を使用し、気分を盛り上げている。日々入居者が集まり、ラジオ体操や生活リハビリ、ゲーム、新聞を読む等、楽しく寛げる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは話し相手になったり、お互いの相性を考慮して座席を決めています。ご本人様の意思にて席が変わられる事も柔軟な対応配慮を行っています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り馴染みのある物品や写真等持参して頂きご本人様の居室に置き、居心地のよく安心し生活が送れるように配慮行っています。	電動ベッドやエアコン、クローゼット、カーテンが備え付けてある。家族の写真を飾ったり、テレビや使い慣れた衣装ケース等を持参している。携帯電話で話をしたり、タブレットでユーチューブを見たりして過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線の確保や明るさへの配慮を行い、迷うことなく安全に配慮した環境作りが出来よう工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500332		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス向陽台	ユニット名	さくら
所在地	宮城県仙台市泉区向陽台5丁目16-20		
自己評価作成日	令和 6年 2月 1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

重度化や看取り支援がある中で、終末期になってもその人らしい生活が出来るようにしている。普段はベッド上での生活であるが行事などの時はユニット入居者さまと一緒に楽しむことを心掛けている。職員も入居者も共同しての生活であることを理解し入居者さまの状況に合わせ家事のお手伝いなどを一緒に行うようにしている。また、外出などの外へ出る機会を多く企画し、楽しみを持てるよう取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 6年 3月 6日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、向陽台の小高い所にあり閑静な住宅街にある。近隣には向陽台小学校や保育園、駐在所、コミュニティセンターがある。同敷地内には訪問介護やデイサービスがあり、デイサービスの利用者とは、ボランティアの「歌のコンサート」等の行事に、一緒に参加し交流を図っている。運営理念「利用者様主体のケア」「地域福祉の向上をめざす」「介護サービスの向上」を掲げ、朝礼時唱和する事で、理念の周知と意識向上に努めている。日々のケアの中で、気づいた情報や提案を取り入れ共有する事で、職員同士の協力体制が出来ている。入居者は家事や野菜作り、趣味の編み物等をしながら、自分らしく穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホームコスモス向陽台** )「ユニット名 **さくら** 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に「地域福祉の向上」を目指すと共に住民として進んで参加しますと掲げており、唱和して共有し実践に繋がるよう努力しています。	理念は各ユニットフロアに掲示してある。朝礼時に運営理念を昼礼時に各ユニット理念を唱和している。6か月毎に会議で話し合い、見直しを行う事で、理念がケアの中で活かされているか確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりが持てるよう、散歩や外出にて出合った地域の方々に挨拶をし会話することを続けていきながら、良い関係性が持てるよう心がけています。	町内会長から、ホームに隣接する小学校の吹奏楽部演奏会に誘われて、入居者数名が聞きに行った。近隣へ2週間に1回来る訪問販売車で、入居者が菓子等を買に行き、地域の方々と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで地域住民の一員として生活できるよう職員も入居者様に支援していることを報告している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて運営状況や取り組みを報告し、意見があれば伺いそこでの内容を取り入れてサービスの質の向上につなげています。また、地域の情報共有の場となっています。	会議は書面や対面で6回開催した。対面時は地域のコミュニティセンターを会場とした。メンバーは町内会長や民生委員、地域包括職員、家族である。民生委員から児童館の子供達と交流の提案があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市担当者、包括支援センターと連絡を密に取り、相談や不明な点があった際にその都度連絡確認し意見を頂き、指導を受けております。	市担当者に介護保険認定更新や区分変更、生活保護者の相談や助言を得ている。県社会福祉協議会主催のスキルアップ研修会に参加した。地域包括職員に空き室の相談をし、入居に繋がった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じスタッフ一同内容を理解して身体拘束を一切実施しないケアを実施しております。	職員が提出した「検討シート」の事例を基に、身体拘束等適正化委員会で、状況や原因、結果、改善点まで検討し、職員間で共有している。日頃の声掛けから、何がスピーチロックにあたるか意識して対応している。職員間で気付いた時は注意し合っている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待について学び、日ごろから虐待を起こさぬように努めています。小さな声から一つ一つ確認していき、職員同士でも間違った声掛けが行われていないかを確認し合っています。	マニュアルを基に研修をしている。介護拒否がある場合等は、職員が代わる等の対応をしている。管理者は年2回の面談を行う中で、家庭の事情や勤務内容の相談を受けている。職員間の協力体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて権利擁護についての研修を行い学んでいますが、制度を活用されている利用者が居ないため、今後の必要に応じて支援していきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は懇切丁寧に内容を説明し、ご納得いただいた上で記名押印を頂いております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しております。	通院時や電話連絡時に意見や要望を聞いている。外出や面会時間、居室での面会等の要望は、コロナ禍での自粛を2月から緩和している。自宅に帰って娘の手作り料理を食べに来て方がいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者並びに管理者が一体となって運営作りが行えるよう、スタッフから面談や会議において意見・提案等を吸い上げ、運営に反映できるよう努めています。	管理者は面談時や日々話しやすい環境作りをし、意見を聞き業務改善に繋げている。月2回の希望休の他に希望に沿ったシフトになるよう調整している。資格取得は勤務扱いや費用負担の支援がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者ならびに管理者が一体となって働きやすい職場になるよう、面談や人事評価を行い、また各スタッフとも向上心を持てるよう目標設定をし実行をしてもらいながら、良い環境で働いていけるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修や毎月のスタッフ研修ならびに本社研修などの機会を設けて、資質向上に努めています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過明けではあるが実施出来ていない。	隣接する同法人デイサービス職員と行事を企画したり、ケアについて話をし交流がある。専門医とも、入居者の体調や薬について相談している。調剤薬局の薬剤師には、入居者の投薬方法等で相談をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の不安事や要望等に耳を傾け、状況を把握し、ケアに活かしていくための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や不安事に耳を傾け、ご本人様と共にご家族様も支援していけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ご家族様の要望等を聞き入れ、会話やケアを通じて、何を必要とされているのかを見極め、ご本人様ご家族様が安心出来る対応ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の今までの生活歴を把握し、あくまでもご本人様主体のケア、生活のペースや体力・ADLに合わせたケアや支援が出来るよう配慮しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設入所後もご本人様とご家族様が、継続して繋がりが持てるよう連携を取り共に考え、また、他業種の方々や地域も連携を図りながら支援していけるよう努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物品を持参して頂き、ご本人様の居室や手の届くところに置いておき、居心地のよい場所となるように努めています。	理容師が3ヵ月毎に来訪しカットや顔そり、毛染めをし馴染みの関係が出来ている。美容師の娘が来訪し居室でカットをしている。車で近くの七北田公園へ花見に行ったり、洞雲寺へ紅葉を見に行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話したり、一緒にレクリエーションや行事に参加し楽しんで頂ける様な配慮を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡し状況確認を行っています。広報紙も配布するようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の出来る事、やりたい事、昔から行ってきたことを把握し、可能な限り実現できるようなケアや支援に取り入れて一緒にを行っています。	普段の生活の中で、入居者の気持ちに寄り添い、話を聞くように心掛けている。秋田出身の方が「きりたんぼが食べたい」との要望に応じたり、職員と一緒に梅のヘタを取り、梅ジュースを作って懐かしんだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで本人の状況を把握し、出来る限り継続した生活が続けることが出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の心身の状態や、出来る事・出来ない事の把握に努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の現状を把握したうえで、今後の課題とケアの方向性を毎月一回のカンファや毎日のミニカンファを通じて聞き取りし、またご家族様と話し合いをし、その結果を介護計画に活かしていけるよう努めています。	入居者や家族の思いをアセスメントし、担当職員の意見を基にモニタリングをして、3カ月毎に見直している。家族の要望で拘縮予防の為に、訪問マッサージを週2回計画に取り入れている方が数人いる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録など記入し、スタッフ間で情報を共有し実践し、経過や結果から方向性や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージや機能訓練などのサービスのご協力を頂きながら対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に移動販売車が来るときに、利用者様が希望される際には利用させていただいている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週かかりつけの主治医が往診に来てくれる体制を整えています。健康状態健康状態に応じて連絡相談出来ています。	全員が協力医の訪問診療を月2回利用している。専門医への通院は家族であるが、職員が同行する時もある。歯科は、治療を要する時に来訪している。訪問看護師が入居者の体調管理や医療機関と連携を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師、訪問看護師、スタッフと報告や記録にて連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通じて必要に応じて連携しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を設けて、入居時や必要時にご家族様と話し合い、方針を共有しています。	「看取りに関する指針」が明文化されており、入居時に説明している。状況の変化に応じて家族や医師、職員で話し合い、今後に向けての意思確認を行っている。看取りの研修や看取り後の振り返りを行っている。看取り後家族から感謝の言葉があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいた研修を行っており、対応できるよう努めています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	基準に基づきスプリンクラーを設置し、避難訓練を実施して災害時に備えています。	年2回避難訓練を行い、誘導方法や避難経路、避難場所の確認をした。訓練後は「避難誘導後の目印として、居室前に枕を置く」等を共有した。非常用食料やコンロ、懐中電灯等を備蓄している。	夜間想定をした避難訓練を実施して頂きたい。運営推進会議で話し合い、コロナ禍前のように地域住民の協力が得られるよう取り組んで頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関するマニュアルや認知症に関する研修にて言葉かけや尊厳を学び、一人ひとりを尊重しプライバシーが守れるよう努めています。	排泄の失敗時には、周囲にわからないよう居室やトイレに誘導している。申し送り時は、内容が入居者に聞こえないよう配慮している。入居者は人生の先輩として、常に敬う気持ちでケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思表示や自己決定ができるように、例えば水分提供の際は、好きな飲み物を選んで頂くよう声かけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけご本人様の思いやしたい事に配慮しながら、また、ペースに合わせた生活が送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服だけではなく髪型や髭などの身だしなみも配慮して支援しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食の盛り付けや、食器やおぼん拭き、テーブル拭きを手伝って頂ける様声がけ支援しております。	食事は主菜を配食業者に発注し、味噌汁やご飯、副菜等は、職員が作っている。誕生日は入居者のリクエストで蕎麦や肉料理等が出てくる。敬老会は職員手作りの祝い膳が喜ばれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量を常に把握し、必要な栄養や水分が摂取できるよう配慮し、本人の体調や嚥下状態も把握しながら食事形態を考え提供し支援行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し清潔保持に努め、必要時は訪問歯科に治療をお願いしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り自立した排泄ができるよう声掛けや物品にも配慮し、プライバシーにも配慮しています。	排泄チェック表や表情、ソワソワしたしぐさを見逃さず、適切なトイレ誘導を行った事で、失敗が減りパッド不使用になった方がいる。見守りシステムを使用し、入居者の安全を確保しながらトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や体調、運動不足など多角的にとらえ、自然排泄が出来るよう支援しています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴表に基づき定期的に入浴ができるようにしていますが、一人ひとりの体調や気分に合わせて柔軟に変更したり、ご本人様が入浴を希望する時間に合わせられるように行っています。	入浴は週2回以上である。リフト浴があり、浴槽を跨ぐのが困難になった方でも、湯船に浸かり気持ち良く入浴している。柚子湯や菖蒲湯で季節を感じている。風呂釜洗浄を週1回行い、清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明るさや温湿度の管理を行い、かつ個室での転倒防止にも出来る範囲で努めていき、安心して休んでいただけるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表に基づいた管理を行っています。服薬事故のないようスタッフ間でダブルチェックを実施しています。また、看護師にも内服時間や方法など相談しながら、かつ医師にも相談を行いながら適切な服薬ができるよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔行っていた趣味や楽しみごとをご家族様から伺い継続して行っていくことで、メリハリのある生活が出来るよう支援しています。出来る事に配慮した支援をし、手伝い等役割と感じ、活気のある日常を過ごして頂けるよう支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や要望を聞き取り、参考にさせていただきながら月に1度以上外出の機会を作っている。今後も増やしていきたいと思えます。	車椅子の方も一緒に、近くの公園へ散歩に行っている。泉アウトレットのイルミネーションを見ながら散策をしたり、莓狩りに出かけている。ホーム駐車場で芋煮や秋刀魚を食べたり、プランターで野菜を育て外気に触れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別でのお金の管理を行える方が少なく、施設預かりとしていますが、ご本人様やご家族様の希望に応じて、お小遣いの中から買い物支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からご家族様への電話連絡が自由に行われるよう支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、季節感を感じる事の出来る飾りつけを行っており、居心地のよく感じる空間作りに努めています。明るさや温湿度にも配慮行っています。	フロアで行う、敬老会やクリスマス会、餅つき大会は紅白幕を使用し、気分を盛り上げている。日々入居者が集まり、ラジオ体操や生活リハビリ、ゲーム、新聞を読む等、楽しく寛げる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは話し相手になったり、お互いの相性を考慮して座席を決めています。ご本人様の意思にて席が変わられる事も柔軟な対応配慮を行っています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り馴染みのある物品や写真等持参して頂きご本人様の居室に置き、居心地のよく安心し生活が送れるように配慮行っています。	電動ベッドやエアコン、クローゼット、カーテンが備え付けてある。家族の写真を飾ったり、テレビや使い慣れた衣装ケース等を持参している。携帯電話で話したり、タブレットでユーチューブを見たりして過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線の確保や明るさへの配慮を行い、迷うことなく安全に配慮した環境作りが出来よう工夫しています。		